

令和5年（2023年）6月教育委員会定例会会議録

日 時 令和5年（2023年）6月27日（火） 午後1時30分～午後3時7分

会 場 柏崎市役所4階4-4会議室

|     |              |      |
|-----|--------------|------|
| 出席者 | 教育長          | 近藤喜祐 |
|     | 委員（教育長職務代理者） | 米谷杉子 |
|     | 委員           | 阿部健志 |
|     | 委員           | 梅田広美 |
|     | 委員           | 飯塚政雄 |

説明のため出席した職員

|                         |      |
|-------------------------|------|
| 教育部長                    | 宮崎靖彦 |
| 教育総務課長                  | 田辺文敏 |
| 学校教育課長 兼<br>教育センター所長    | 矢沢欣也 |
| 文化・生涯学習課長               | 窪田守  |
| スポーツ振興課長 兼<br>水球のまち推進室長 | 藤巻久之 |
| 図書館長                    | 鈴木豊彦 |
| 博物館長                    | 西巻隆博 |

説明及び職務のため出席した事務局職員

|           |     |
|-----------|-----|
| 教育総務課課長代理 | 伊比孝 |
|-----------|-----|

議 題

- 1 会議録署名委員の指名
- 2 教育長専決処理報告
  - (1) 令和5（2023）年度一般会計補正予算（第8号）について
  - (2) 柏崎市立教育センター運営委員会委員の解嘱及び委嘱について
  - (3) スポーツ推進審議会委員の解嘱及び委嘱について
- 3 協議事項
  - (1) 令和4年度（2022年度）柏崎市教育委員会点検・評価報告書の諮問について
- 4 報告事項
  - (1) 市議会6月定例会議の一般質問について
  - (2) ぎおん柏崎まつり「マーチングパレード」の開催について
  - (3) 第66回柏崎市美術展覧会（市展）の作品募集について
  - (4) SOMPOボールゲームフェスタin柏崎を開催しました
  - (5) 市民ウォーキング大会（サンセットウォーキング）を開催しました

- (6) おさかなまつりにウォーターポロクラブ柏崎の選手が協力
- (7) 6月の水球合宿について
- (8) 子ども図書館員体験の実施について
- (9) ユネスコ無形文化遺産登録記念の綾子舞記念公演開催について
- (10) 共催・後援の事業について

## 5 その他

- (1) 7月定例会の日程について
- (2) その他

---

＜ 午後1時30分 開会 ＞

### 第1 会議録署名委員の指名

(近藤教育長)

会議録署名委員に、阿部委員、梅田委員を指名する。

### 第2 教育長専決処理報告

(近藤教育長)

教育長専決処理報告に入る。

- (1) 令和5（2023）年度一般会計補正予算（第8号）についてを議題とする。

(教育総務課長)

歳入で中学校建設事業債2,640万円と、小学校建設事業債2,410万円を計上した。

これは、第一中学校、二田小学校のトイレ改修工事である。昨年度、国の第2次補正予算で学校施設環境改善交付金を申請し、国から内定を得て補正予算を計上したが、年度末間際であったため、令和5年度に予算を繰り越した。

しかし、交付金について確認ミスがあり、申請できない施設区分であったことが判明した。交付金が使えなくなったが、両工事で計画したトイレの洋式化は強く望まれていることから、工事を実施するために検討したところ、緊急防災・減災事業債が活用できることになったものである。なお、歳出は歳入に連動している。

(近藤教育長)

質問、意見を求める。

(阿部委員)

新聞にも掲載された事案であり、もう少し詳しく説明願いたい。

(教育総務課長)

この工事は、体育館に附属したトイレを改修、また、多目的トイレを増設する計画である。学校施設環境改善交付金は、施設区分が屋内運動場の場合に対象となる。それぞれの学校は施設台帳において校舎棟や屋内運動場、寄宿舎などの区分で管理している。本来であれば、体育館は屋内運動場で区分されているが、この2校は、トイレ部分が屋内運動場ではなく、地域・学校連携施設になっていた。これは、体育館を建設する際、地域・学校連携施設の補助金を活用したため、施設の区分もそのように管理している。

教育委員会としては、体育館に附属するトイレであったため、屋内運動場であると判断し

て交付金の申請を行い、県や国が審査した際も申請どおり内定された。その後、本申請の際、改めて施設台帳を見直し詳細を確認したところ、地域・学校連携施設であったことが分かり、県に確認したところ、申請できない区分であったとの回答があり、発覚した。

なお、地域・学校連携施設とは、学校と家庭、地域社会との連携を一層促進するための会議室やボランティア室、多目的室など、地域と学校がより結びつくために作られた施設である。

(阿部委員)

市内すべての学校の体育館は、地域・学校連携施設なのか。

(近藤教育長)

体育館を作る段階において、地域・学校連携施設の補助金を活用し、ミーティングルームや相談室などを作った学校がある。台帳上は、屋内運動場ではなく、地域・学校連携施設として管理している。市民の皆様が使用する際は、差は全くないものである。

今回、担当者が改めて台帳を確認した際に気づき、県に確認したところ判明したものである。もし、工事後の場合は、会計検査で指摘される可能性がある。

対象となった学校数は、今年度トイレの改修を計画している4校のうち2校である。

(阿部委員)

体育館を建てる際に、見積もりや施工金額を分けて作っているのか。

(教育総務課長)

分けて作ってはいない。例えば、10のうち2割について交付金を充てるという考え方である。

(近藤教育長)

ほかになれば承認してよろしいか。

(全委員)

異議なく承認。

(2) 柏崎市立教育センター運営委員会委員の解嘱及び委嘱についてを議題とする。

(教育センター所長)

柏崎市コミュニティ推進協議会総会の役員改選に伴うものである。令和5年(2023年)6月1日付で当該委員を解嘱し、残任期間について新たに委員を委嘱するものである。残任期間は、6月2日から令和6年(2024年)5月31日までである。

解嘱する委員は、副会長であった石黒功さん、委嘱する委員は、副会長に就任された横田誠一さんである。

(近藤教育長)

質問、意見を求める。

(近藤教育長)

なければ承認してよろしいか。

(全委員)

異議なく承認。

(3) スポーツ推進審議会委員の解嘱及び委嘱についてを議題とする。

(スポーツ振興課長)

柏崎刈羽小学校体育連盟事務局の枇杷島小学校長が異動になったため、変更するものである。本来であれば、4月の教育委員会で報告すべきところであったが、遅くなったことをお詫びする。令和5年3月31日に池田岳康様を解嘱し、令和5年4月1日から令和6年3月31日まで池田弘様を委嘱したい。

次に、柏崎市スポーツ協会の役員改選があり、現委員の変更届が提出されたため、令和5年5月31日付で坂井和之様を解嘱し、令和5年6月1日から令和6年3月31日まで佐藤幸治様を委嘱したい。

(近藤教育長)

質問、意見を求める。

(近藤教育長)

なければ承認してよろしいか。

(全委員)

異議なく承認。

### 第3 協議事項

(近藤教育長)

協議事項に入る。

(近藤教育長)

(1) 令和4年度(2022年度)柏崎市教育委員会点検・評価報告書の諮問についてを議題とする。

(教育総務課長)

地方教育行政組織及び運営に関する法律の規定に基づき、令和4(2022)年度に執行した教育委員会の事務の点検及び評価を行うにあたり、学識経験を有する4名の委員で構成する教育委員会事務評価委員会に諮問をするものである。

はじめに、点検・評価の背景については先ほど申し上げたとおり、学識経験を有する方の知見を活用するためであり、詳しくは割愛する。

点検・評価対象となる事務事業は、第五次総合計画の後期基本計画の施策体系を基本に柏崎市教育大綱を踏まえて、令和4(2022)年度に執行した事業のうち81事業を対象としている。事業数は、昨年度から6事業増えている。これは、昨年度が第五次総合計画後期基本計画の初年度にあたることから、施策の方針を踏まえ改めて記載事業の見直しを行ったことによるものである。

内部評価ランクは、前回と同様にS、A、Bの3段階のほか、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で事業を実施しているが、やむを得ず事業を中止又は縮小し、評価ができない事業は評価不能とした。

資料の2から5ページの総評、項目別の評価については、事務評価委員会において取りまとめた結果を記載する。6から7ページは、昨年度の教育委員会の活動を記載している。不足がある場合やお気付きの点があればお聞かせいただきたい。8ページ以降は、各事業の説明を事業別に表にまとめて記載している。各項の冒頭に各課の主要な事業を記載している。

現時点の評価ランクは、担当課の自己評価を教育長と教育部長が精査し、教育委員会として評価したものである。評価の内訳は、Sランクが1事業、Aランクが79事業、Bランクが0事業、評価不能が1事業である。

今後は、7月11日と12日に事務評価委員会を開催する。担当課が所管事業の説明を行い、21日に評価委員から講評をいただく予定である。その結果を7月下旬に市長及び副市長に報告し、8月の教育委員会でその内容を審議いただく。また、9月に市議会へ報告する。個別事業については、説明を省略する。質問、意見等あれば担当課がお答えする。

(近藤教育長)

ページを区切りながら質問、意見を求める。1ページから7ページまでで質問、意見を求める。

(全委員)

質問、意見なし。

(近藤教育長)

8ページから12ページまでで質問、意見を求める。

(阿部委員)

指導補助事業では、指導補助員を2名増員するなどの対応をしているが、今年の課題として「学校差や個人差が課題」と記載されている。この差を詰めていくための更なる方策はあるか。

(学校教育課長)

学力調査では、学校差、個人差が課題になっているが、指導補助事業に直結しているかという点、必ずしもそうではない中で、このような表現にしたことは、分かりにくいと思う。ご意見を今後活かしたい。

(米谷委員)

11ページのデジタル教科書について、英語を中心に導入をしていると聞いた。柏崎市で導入しているデジタル教科書とは、どのようなものか。

(学校教育課長)

将来的には、児童生徒が使うデジタル教科書が出てくるかもしれないが、ここで言うデジタル教科書は、教師向けのデジタル教科書である。指導に当たり教師の教科書又はその指導書に付随するデジタル版である。

(近藤教育長)

13ページから16ページの上段までで質問、意見を求める。

(阿部委員)

特別支援学級介助事業と特別支援教育推進事業は、昨年度はS評価であった。相対的に自己評価が厳しいと感じる。この事業をとということではないが、もう少しS評価があっても良いと思う。この2つの事業をA評価に下げた理由をお聞きしたい。また、なぎさ体験塾の今後の方向性を聞きたい。

(教育部長)

評価ランクについては、行政の役目として最大の目的は住民福祉の向上である。それに向けた施策を予算化し、実際に事業を執行するにあたっては計画どおりに事業を行い、予算執行ができればAランクと考えている。我々が目指した以上の成果が出た場合がSランクであると思っている。今回、すべての事業を見渡した中でSランクは1事業にとどまったため、ご理解をいただきたい。

また、なぎさ体験塾については、4年ぶりに8月に実施する予定である。

(飯塚委員)

特別支援教育推進事業の課題と今後の取組について、「通常学級担任も含めたすべての教職員について、特別支援教育に関する資質の向上のための研修の充実が求められる」とあるが、これまで行われた研修の内容と今後の計画をお聞きしたい。

(学校教育課長)

特別支援学級の担当者向けの研修は、沢山ある。通常学級の中にも特別支援教育を要する児童生徒もいることから、それと並行して通常学級の担任にも希望者は参加できるような研修を設定している。しかし、実際は研修に参加する教員は少なく、特別支援学級の担任又は特別支援コーディネーターが参加している状況である。

そうした中、通常学級の中の特別支援教育を要する児童生徒が年々増えてきており、特別支援学級の在籍児童生徒数は高止まりしている。また、通常学級に在籍し、通級指導教室に通う児童生徒が増えている。具体的には、10年前と比較すると小学校は約4倍に、中学校は3.4倍に増えている。

(こうした状況から)対象の児童生徒が授業に集中できるよう通常学級の学級経営や授業を組み立てる必要があり、教育センターなどで研修会を設けている。

(飯塚委員)

本田秀夫さんの本を読んだことがある。そのとおりに申し上げると「宿題は百害あって一利なし」、色々な面があり、一面だけではないと思うが。また、色々なタイプの児童生徒がいる中で校則が厳しすぎると追い込んでしまう恐れがあることも書いてあった。子ども達が学校を楽しめるよう、居やすい場所を作る取組が必要である。

(学校教育課長)

小・中学校では、一人ひとりの児童生徒を大切に、個に応じた指導を行っている。個に応じた指導を裏返すと、多面的、多角的に理解し、個性や長所、短所のほか、特性や勉強面、人との関わりの力などを理解し、児童生徒が育つために教職員間で共有しながら、一人ひとりにきめ細やかに対応している。

そのような中、校則や決まりを厳しく指導すると、その児童生徒は潰れたり、反抗したりするため、個に応じたタイミングや場所に配慮しながら指導している。

(梅田委員)

市内の子ども達が施設を使って体験活動をするとき、先生方が丁寧に、少しでもその子にあった活動が出来るよう取り組んでいるところを目の当たりにしており、個に応じた対応をしていると感じている。引き続き、お願いしたい。

(近藤教育長)

特性のある児童生徒は、例えば音に敏感な場合は、椅子の下にいらなくなったテニスボールを付け大きな音が出ないようにしたり、口頭では分かりにくい場合は板書で示したりするなど、皆が寄り添いながら学習ができる環境づくりに努めている。

(米谷委員)

通級指導教室事業について、通級教室の先生は専門性が高いが、その知識などを担任の先生に活かされるよう連携を図り、現場の先生の育成をお願いしたい。

(学校教育課長)

通級指導教室を運営している教職員は、特別支援教育コーディネーター以上の専門性のある選ばれた先生が通級教室を運営している。子ども達のスキルアップに向けた計画に基づいて授業を組み立て、指導を行っている。

通級教室の先生と通常学級の担任との情報共有を、もう少し丁寧に、細かく行うことは課題でもあるため、担当者に伝えていく。

(近藤教育長)

16ページから21ページまでで質問、意見を求める。

(梅田委員)

校舎戸締り等委託業務経費について、学校訪問の際、先生方から働き方改革の関係について話を聞いた。業務が大変な中でも時間内に帰ることは、努力が必要であると思う。退校の促し方をお聞きしたい。また、日直業務員の確保が難しいとのことだが、具体的な内容をお聞きしたい。

(教育総務課長)

日直業務員は、シルバー人材センターに委託している。(会員の中で)この業務に従事していただく方の確保が厳しい状況であると聞いている。

(学校教育課長)

この取組は、令和3年度から行っている。日直業務員を導入しているのは10校だが、市内の全31校が教職員の最終退勤時間を午後7時30分として取り組みを始めた時期も令和3年度である。市全体の取組であり、そこに向けた行事の精選や会議のスムーズな運営など先生方の業務改善に向けた工夫を各学校で行ってもらい、管理職が早期退勤を呼び掛けている。

(近藤教育長)

22ページから27ページまでで質問、意見を求める。

(全委員)

質問、意見なし。

(近藤教育長)

28ページから33ページまでで質問、意見を求める。

(全委員)

質問、意見なし。

(近藤教育長)

34ページから最後38ページまでで質問、意見を求める。

(全委員)

質問、意見なし。

(近藤教育長)

ほかになれば承認してよろしいか。

(全委員)

異議なく承認。

#### 第4 報告事項

(近藤教育長)

報告事項に入る。

※教育長及び各課(館)長が資料に沿って説明

(1) 市議会6月定例会議の一般質問について

(2) ぎおん柏崎まつり「マーチングパレード」の開催について

- (3) 第66回柏崎市美術展覧会（市展）の作品募集について
- (4) SOMPOボールゲームフェスタin柏崎を開催しました
- (5) 市民ウォーキング大会（サンセットウォーキング）を開催しました
- (6) おさかなまつりにウォーターポロクラブ柏崎の選手が協力
- (7) 6月の水球合宿について
- (8) 子ども図書館員体験の実施について
- (9) ユネスコ無形文化遺産登録記念の綾子舞記念公演開催について
- (10) 共催・後援の事業について

(近藤教育長)

以上で報告事項を終わる。

#### 第5 その他

- (1) 7月定例会の日程について 7月25日（火）午後1時30分開会
- (2) その他

< 午後3時7分 閉会 >

---

以上、相違ないことを確認する。

令和5年（2023年）7月25日

教育長 近藤喜祐

委員 阿部健志

委員 梅田広美